

大正十四年十二月、昭和三年三月在外研究。工芸化学、化学実験授業担当教授として昭和九年八月まで在職。

畑保之 助教授、写真実習担当

大正十五年五月東京高等工芸学校助教授に転任。

長口宮吉 助教授、写真科理事、工芸化学、化学、化学実験担当

大正十五年五月東京高等工芸学校助教授兼本校講師となり、昭和二年三月まで本校に關係。

久米福衛 講師、写真実習担当
東京高等工芸学校嘱託

大正十五年六月講師を辞任。

伊藤龍吉 講師、写真科修正術担当

大正十五年五月解嘱。

② 西田正秋の起用

大正十五年四月二十三日、西田正秋が助教授（美術解剖授業担当）に任命された。以後昭和四十四年まで本校および東京芸術大学に在職する。

西田は明治三十四年に東京市本郷区西片町に生まれ、翌四十年熊本市に転居。熊本中学校在学中に神戸へ移住して関西学院中学に転校した。中学一年のときから植物学専攻の父の指導のもとで特に動物学の研究を始めた。大正九年上京して同十五年本校を卒業するまでのことは、助教授任命の際に提出した履歴書に次のように記されている。

川端畫學校ハ東京市小石川區下富坂町十九ニアリ。洋畫部ノ教

授ハ藤島武二先生、同監督ハ富永勝重先生ナリ。同校通學中約一年間神田ノアテネ・フランセニ通學シ佛蘭西語ヲ修學ス。爾後今日マデ貧弱ナガラ獨習セリ。

美術學校ニテハ教室ハ藤島武二先生ノ教室ヲ選ビ語學ハ英語ヲ選ブ。選擇科目ハ西洋畫科ナリシモ考フル處アリテ大村〔西崖〕先生ノ東洋考古學ヲ選ベリ。

美術學校ニ年生ノ時特待生ニ選定セラレ級長ヲ命ゼラル。同三年ノ時副級長ヲ命ゼラル。其他種々ノ委員等ヲ命ゼラレシメアリ。

同校在學五年間ニハ自己ノ趣味性格上實技ヲ學ブ傍ラ美術ニ關スル各學科ニツキテ聊カ研究ス。就中、藝術用解剖學ヲ最モ好ミソノ研究ヲ専攻センコトヲ志シ多少基礎學科ヲモ獨習シ書籍研究材料等ノ蒐集ニモ勉メ今日ニ及ベリ。

〔大正十五年職員關係書類掛〕

ここに記されている「藝術用解剖學」の研究が久米桂一郎に認められて、後継者に抜擢されたのであった。

西田は助教授に任命されるや同じ年の八月から東京帝国大学医学部解剖学教室に通い始め、一年間に亘って屍体解剖実習その他を研究し、基礎知識を修得した。

③ 高村光雲の退官および名誉教授推戴

大正十五年三月三十一日、彫刻科主任教授高村光雲が退職した。その長年の功績に鑑み、本校は名誉教授の称号を贈るべく、次のよ